

1. 開会

2. 副委員長の選出

- ・副委員長の選出方法について意見がなければ事務局案を提案することです承。
- ・事務局からは南委員に引き続き、校長会の竹森委員を提案。
- ・事務局案を各委員に諮り、承認される。

3. 委員長あいさつ

今日は「ニュージーランドラグビーキャンプ」の報告及び審査がありますのでよろしくお願い致します。

4. 報告事項

28年度に補助を行った4件の国際交流事業について報告。

①ニュージーランド ラグビーキャンプ（平成28年7月21日～7月28日）

【事務局】

- ・事業実績報告を事務局より説明

【委員】

- ・市の補助金を利用してニュージーランドで行われる研修に参加している。今後ラグビーというスポーツを通して、どうしていきたいかが感想文に記載されているので良いと思う。

【委員】

- ・日常と違うことを経験できたことは長い人生の多感な時期ということもあり、とても良い体験ができたのではないと思う。

【委員】

- ・ニュージーランドラグビーキャンプの申請は恒例的になっているが、参加した本人たちにとっては、普段体験できないことをしてきて成長できる内容となっている。

5. 議 事

2件の国際交流事業について審査。

①ニュージーランド ラグビーキャンプ プログラム（平成29年7月20日～7月29日）

【事務局】

- ・事務局より申請の内容について説明

【事務局】

- ・この審査会については、実際に研修等へ参加する1か月前までに申請をいただき、その都度審査することとなっている。平成28年度においては、ニュージーランドラグビーキャンプの申請が4件のみであったが、以前は、書道の小中学生海外研修の申請や、与論島での国際交流事業の申請があがっていた。今年度は更に申請があがってくる可能性があるため、その都度審査会を開催させていただきたいと思う。

また、前回の審査会の中で、参加者が市の補助金を利用していることを意識して事業へ参加してもらうことが大切というご意見があった。今回ニュージーランドラグビーキャンプに参加する生徒の方には、出発前と帰国後に市長へ報告する機会を設け、意識付けを行えればと思う。市民の方へ対しての報告は、発表会を行うといっても実際には負担も多く、人を集めることも難しいので、広報に感想文を掲載したいと思う。

【事務局】

※国際交流事業補助金交付一覧について説明

・過去には、多種多様な事業に学生だけではなく、大人も補助金を利用して海外研修などに参加していた。制度ができた当時は、海外へ行くことのハードルが高かったように感じるが、最近では気軽に行ける時代になり、制度の利用が減ってきたように感じる。

最近では、ニュージーランドラグビーキャンプや書道の小中学生海外研修、与論島での国際交流事業に申請が限定されており、市役所の内部でも、この制度を変えていく方向性について議論される部分もある。

今回のラグビーについても、毎年同じ人が参加しているわけではなく、個人毎で見ても様々な経験をしてきている。同じ事業ばかりに補助金を交付しているという見方もあるかもしれないが、一参加者として見れば新たな人が毎年参加しているので、参加者の報告をきちんと広報等に掲載することで、広く市民に対してこの制度があるということを周知して、利用してもらえればと思う。

【委員】

・申請書類の中の研修目的について、ラグビーの研修を通して今後どうなっていきたいのかを書いてもらおうと良いと思う。

【事務局】

・昨年の感想文を見ると、ラグビーの他にホームステイを体験ことやニュージーランドの文化に触れることができ良かったという内容も書かれている。今回は出発前に市長へ報告に来てもらう予定なので、事務局からラグビーだけではなく様々な勉強をして欲しいことを伝えたいと思う。次年度以降も申請があれば、目的意識について申請の段階から書いてもらうようにしたい。

【事務局】

・顧問の先生の言葉ではなく、参加する生徒自身の言葉で申請してもらおうようにしたい。

【委員】

・一事業に高校生が市の補助金をもらえるような目的を書くことは難しいと思うので、今後どうしていきたいかを書いてもらえればと思う。

【委員】

・今回も頑張ってもらおうということで、補助金の支出をしてよいか。

→委員長より委員へ確認し、承認される

【事務局】

・ 出発前と帰国後で報告をしてもらう際に、市長だけではなく審査委員の方も都合がつけば同席して頂いて、参加者がどういった思いで参加するのか、参加してきたかを直接確認する機会があれば良いと思うが、どう思うか。

【委員】

・ 参加者からの意見も聞けるので良いと思う。案内をいただいて都合のいい委員は参加できればと思う